

教えて!

vol.68

市立病院

テーマ

においがしない?
早めの受診を

今月のドクター

耳鼻咽喉科長
齊藤 史明 医師



嗅覚障害の原因は様々です。風邪による場合もあれば、においを感じる鼻の奥の嗅裂きゅうれつという場所の前のポリープふくびくうえんや、副鼻腔炎が原因の場合もあります。副鼻腔炎は、急性の場合は風邪の後症状が出ることが多く、慢性の場合は頭痛や鼻の痛み、臭いにおいがする、膿のような鼻水がのどに入る、後鼻漏こうびろうという粘りが増した鼻水がのどに落ちるなどの症状があります。

嗅覚障害の原因を探るため、鼻の中をファイバーで観察し、レントゲンやCTによってポリープや副鼻腔炎があるかどうか確認します。また、血液検査で好酸球の増加を調べることにより難治性の(治りにくい)副鼻腔炎である好酸球性副鼻腔炎の可能性を調べます。

治療は原因によって異なりますが、ステロイド点鼻薬をアレルギーの薬と並行して投与したり、漢方薬とうきしやくやくざんの当帰芍薬散を処方したりします。様々なにおい

を嗅ぐリハビリもあります。それでも治らない場合は、山形大学医学部附属病院と協力しているので、大学病院での治療につなげるのが可能です。また、副鼻腔炎が原因の場合は手術を行います。昔は歯齦部しぜんぶ(歯ぐき・歯肉)を切開していましたが、近年は内視鏡による鼻から行う手術が1週間程度の入院でできるようになりました。

なお、耳鼻咽喉科は、顔面から頸くびの部分、脳の下から鎖骨までの幅広い疾患が対象です。顔面神経麻痺や片側が急に聞こえなくなるタイプの難聴になった人は、様子を見ずにすぐに受診することが重要です。当院では10月から医師が2人となり、より多くの診療を行うことができますので、気になる症状がある人は積極的に受診いただくと早期発見、早期治療につながると思われます。

■問合せ/市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450